

## ◆調査結果まとめ◆

### (1) 団体へのヒアリング

以下の町内の主要な役割を担う団体へヒアリングシート及び直接聞き取り(一部)を行いました。  
なお分野を整理していますが、ヒアリング回答自体は各団体に関わる項目に対して広く回答していただいているため、以下の表に属するモノとは限りません。

#### ■ヒアリング対象

施策分野	長期総合計画との関係性 (基本的な方向性)	団体名
施策分野Ⅰ	農業・畜産業の振興	JA 広島北部 JA 広島市
	商工業の振興	北広島町商工会
施策分野Ⅱ	交流を生むまちの魅力づくりと観光振興	北広島町観光協会
	生涯を通じた学習・スポーツの振興	芸北 大朝 千代田 豊平 体育協会
		芸北 大朝 千代田 豊平 総合型 スポーツ クラブ
施策分野Ⅲ	高齢者福祉の推進、障がい者福祉の推進、地域福祉の推進	北広島町社会福祉協議会
	健康づくり・元気づくりの推進	(一財)どんぐり財団
施策分野Ⅳ	自然環境の保全と良好な生活環境の維持	西中国山地自然史研究会(NPO 法人)
	災害や緊急時に強い地域社会の実現	北広島町消防団
施策分野Ⅴ	町民と行政の協働のまちづくり	Landschaft(NPO 法人) INE OASA(NPO 法人) 八幡青年団(芸北) 100 プロ(大朝) 南風会(千代田) 赤鬼会(千代田) 商工会青年部豊平支部(豊平)

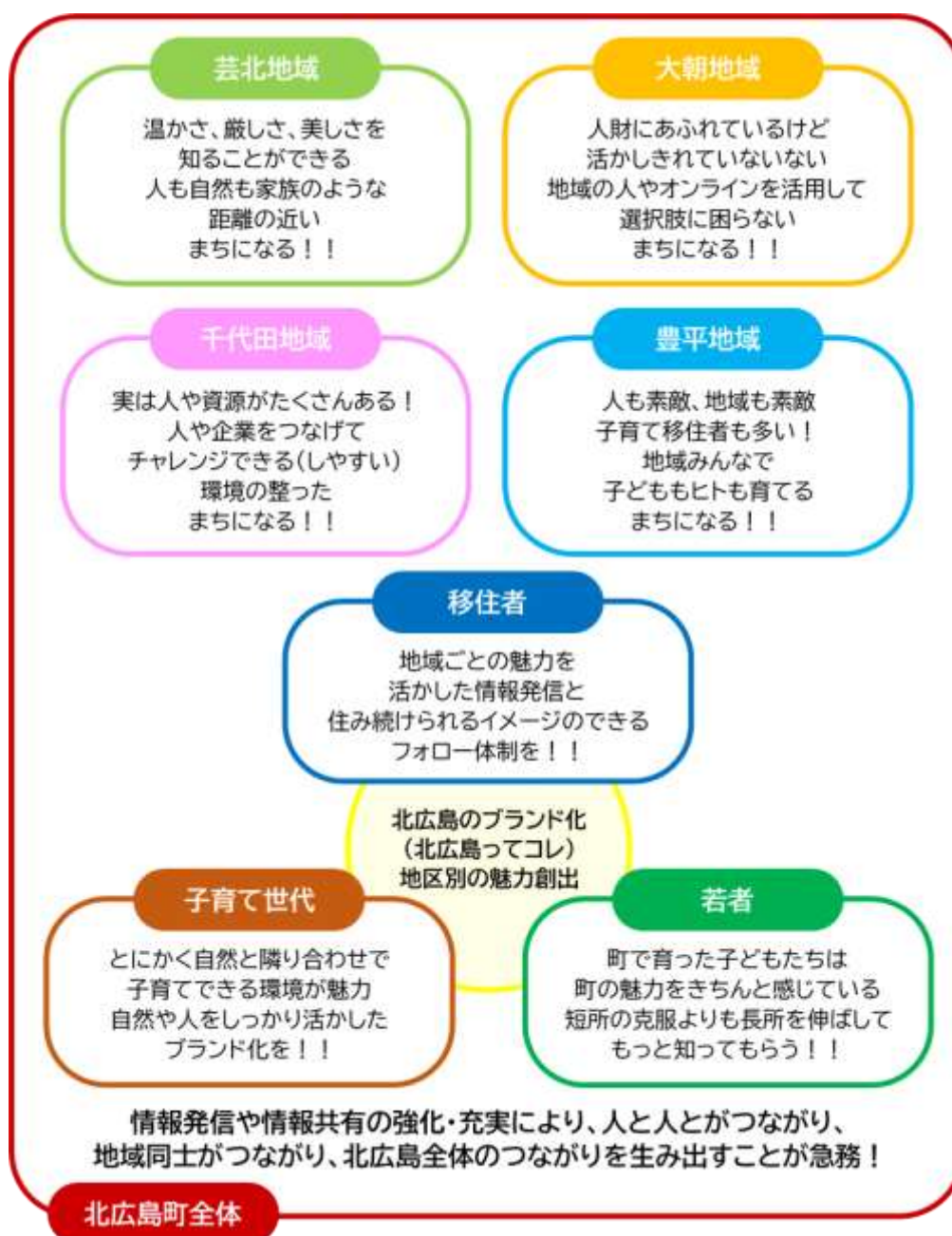
以下とりまとめについては、次期計画の実践に向けた今後の方向性や行政及び地域住民等との連携強化に関連する項目について抜き出したものです。詳細については別紙をご覧ください。

## ■結果概要

項目	内容
農林水産業、 商工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>活躍する人材やポテンシャルはたくさんあるが、活かしきれていない</li> <li>地域の伝統や食を活かす(新たに作る、定着させるなど)</li> <li>小規模事業者が生き残っていけるよう、業種や地域を超えた連携が必要</li> <li>コレというブランドが確立できていない、ブランドの地盤をしっかりとつきた上での生産強化や流通経路の確保をしていく必要がある</li> <li>事業者同士の交流や地域住民と企業との関わる機会を増やして、連携やネットワークの強化につなげたい</li> <li>地域や企業などが持っている技術を生かして、空き家や空き倉庫を活用する</li> </ul>
観光、文化、ス ポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光スポット同士をつなげて、面的に展開する必要がある</li> <li>町内2次交通の整備</li> <li>観光を連携させた外貨獲得のお金が落ちる仕組みが必須</li> <li>誰もが親しめるスポーツの充実が必要</li> <li>まだ自治体としては周りがあまり手掛けていないeスポーツなどに町としても早めに取り組んでほしい</li> <li>地域に馴染みのあるスポーツを推奨するのは良いと思うが、地域で活動する組織と行政との連携や関係づくりを強化して地盤を固めないで推進自体が困難になってきている</li> <li>運動系だけではなく、文科系、芸術系の活動もからめた振興をお願いする</li> </ul>
子育て、教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てのしやすい町、子どもが増える町は最優先すべき施策である</li> <li>小中学校や保育園、地域やスポーツ団体との連携が重要</li> <li>自然環境、地域の高齢者や専門科、企業など、地域性を活かした、その土地ならではの教育を進める</li> <li>子ども達に普段から大人たちが地域で生き生きと暮らす様子をみせることが重要</li> </ul>
健康、医療、福 祉、人権、男女 共同	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味・興味の多様化や関係性の希薄化などにより、地域コミュニティの維持が困難になっている</li> <li>地域の課題を自分事として考えられる人が少ない</li> <li>若いうちからの運動や健康づくりとあわせて、新しい楽しいことをコミュニティ活動に組み込んでいく必要がある</li> <li>リーダーが頑張るのではなく、一人ひとりが楽しめる環境がないといけない</li> <li>地道に長い目でお互いを尊重し合える福祉教育を浸透させる</li> </ul>
住環境、交通、 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住・定住施策は非常に重要、特にUターンがないと成り立たない</li> <li>子どもたちへの施策を集中的に取り組むべき</li> <li>空き家環境の情報整理が必要</li> <li>高速インターネットの普及により、リモートでの仕事を推奨し、新しい生活環境としての受け入れ態勢を確立する</li> </ul>
自然環境、景 観維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民で萱や薪の利用を高め、健全な里山の保全につなげたい</li> <li>循環型の地域をつくる</li> <li>教育、経済、文化など他分野を横断した特徴ある取組として全町的な取組や支援が必要</li> </ul>

項目	内容
防犯、防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老朽化した施設への対応が必要</li> <li>・ 自分事化して、万が一の状況に対応できる訓練や準備をしておく必要がある</li> </ul>
まちづくり、住民協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子化や人口減少、担い手の高齢化などにより、お祭りや地域おこし自体の維持が困難になっている</li> <li>・ 住民や若者が求める形で、巻き込みながら一緒になって考える必要がある</li> <li>・ 地域同士の連携や年代を超えた連携が必要</li> <li>・ 行政とも一緒になって考えていきたい(一方的に頼りたいということはない)</li> <li>・ 行政職員も地域住民の一人として地域の中に入って動いてほしい</li> </ul>

## (2) インタビュー型ワークショップ



### (3) 住民意識調査

#### ■結果概要

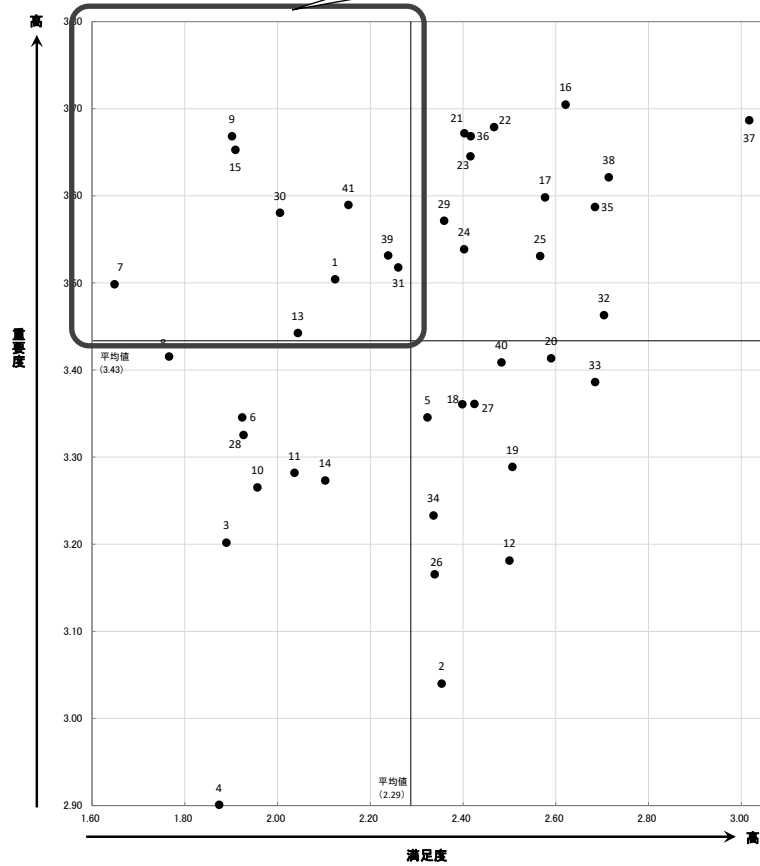
No	項目	内容																																																																											
1	回収率	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内在住の16歳以上の方を対象に1,000件配布</li> <li>回収率47.4%(前回回収率は47.0%)</li> <li>Web回答は14件(全体の0.14%)</li> </ul>																																																																											
2	回答者の年齢	<ul style="list-style-type: none"> <li>60歳以上でほぼ半数を占めている</li> </ul>																																																																											
3	住み良さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に前回調査と比べて「住み良い」とする人が増えている傾向がみられる</li> <li>30歳代までの若い世代では比較的「住み良い」の割合が低くなり、「住みにくい」の割合が高くなる傾向がみられる</li> <li>地域別にみると、大朝、千代田に比べて芸北、豊平は「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の割合が低くなる</li> </ul>																																																																											
4	具体的な住み良いところ、住みにくいところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な住み良いところは「自然環境の豊かさ」や「治安の良さ」、住みにくいところは「交通の利便性」や「買い物の不便さ」などがあげられている</li> <li>前回に比べて良くなっているのは「住宅環境」や「治安の良さ」、悪くなっているのは「働く場」</li> <li>40歳未満では「まちの雰囲気やイメージが良い」の割合が比較的高くなっている</li> <li>千代田地域に比べて他の3地域は「交通」や「買い物」などに不満が高い傾向がみられる</li> <li>北広島町が住みにくいと思っている人にとっては、「地域のつきあい」や「医療機関や福祉施設」に対して住みにくさを感じている</li> </ul>																																																																											
5	まちづくりの施策評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の中で重要度が高いにも関わらず、満足度が低い事業は「農業」、「産業の担い手」、「雇用」、「移住・定住」、「子育て」、「生活交通」、「情報通信」、「協働によるまちづくり」、「効率的な行政運営」となっており、特に優先的に実践が求められている施策といえる。特に「産業の担い手」は最も満足度の低い項目となっている。</li> <li>施策分野について前回調査の結果と比較すると、施策分野②と施策分野④のみ、前回に比べて満足度が減少しています。なお、施策分野の内容については以下の通り</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="5">施策分野①</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 農業</td> <td>2. 農山村交流</td> <td>3. 林業</td> <td>4. 水産業</td> <td>5. 工業</td> </tr> <tr> <td>6. 商業</td> <td>7. 産業の担い手</td> <td>8. 新規事業・起業</td> <td>9. 雇用</td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="5">施策分野②</th> </tr> <tr> <td>10. 観光</td> <td>11. 交流</td> <td>12. 歴史文化</td> <td>13. 移住・定住</td> <td>14. 住まい</td> </tr> <tr> <td>15. 子育て</td> <td>16. 学校教育</td> <td>17. 青少年</td> <td>18. 生涯学習</td> <td>19. スポーツ</td> </tr> <tr> <th colspan="5">施策分野③</th> </tr> <tr> <td>20. 健康づくり</td> <td>21. 保健・医療・福祉</td> <td>22. 高齢者福祉</td> <td>23. 障害者福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>24. 地域福祉</td> <td>25. 人権・差別解消</td> <td>26. 国際理解</td> <td>27. 男女共同参画</td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="5">施策分野④</th> </tr> <tr> <td>28. 土地の利用</td> <td>29. 道路</td> <td>30. 生活交通</td> <td>31. 情報通信</td> <td></td> </tr> <tr> <td>32. 循環型社会</td> <td>33. 美しい環境と景観</td> <td>34. 新エネルギー</td> <td>35. 上下水道</td> <td></td> </tr> <tr> <td>36. 災害対策</td> <td>37. 消防・救急</td> <td>38. 防犯・交通安全</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th colspan="5">施策分野⑤</th> </tr> <tr> <td>39. 協働によるまちづくり</td> <td>40. 広域連携</td> <td>41. 効率的な行政運営</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回調査の結果と一つひとつの施策項目を比較すると、満足度の上がっている項目が多くなっている</li> </ul>	施策分野①					1. 農業	2. 農山村交流	3. 林業	4. 水産業	5. 工業	6. 商業	7. 産業の担い手	8. 新規事業・起業	9. 雇用		施策分野②					10. 観光	11. 交流	12. 歴史文化	13. 移住・定住	14. 住まい	15. 子育て	16. 学校教育	17. 青少年	18. 生涯学習	19. スポーツ	施策分野③					20. 健康づくり	21. 保健・医療・福祉	22. 高齢者福祉	23. 障害者福祉		24. 地域福祉	25. 人権・差別解消	26. 国際理解	27. 男女共同参画		施策分野④					28. 土地の利用	29. 道路	30. 生活交通	31. 情報通信		32. 循環型社会	33. 美しい環境と景観	34. 新エネルギー	35. 上下水道		36. 災害対策	37. 消防・救急	38. 防犯・交通安全			施策分野⑤					39. 協働によるまちづくり	40. 広域連携	41. 効率的な行政運営		
施策分野①																																																																													
1. 農業	2. 農山村交流	3. 林業	4. 水産業	5. 工業																																																																									
6. 商業	7. 産業の担い手	8. 新規事業・起業	9. 雇用																																																																										
施策分野②																																																																													
10. 観光	11. 交流	12. 歴史文化	13. 移住・定住	14. 住まい																																																																									
15. 子育て	16. 学校教育	17. 青少年	18. 生涯学習	19. スポーツ																																																																									
施策分野③																																																																													
20. 健康づくり	21. 保健・医療・福祉	22. 高齢者福祉	23. 障害者福祉																																																																										
24. 地域福祉	25. 人権・差別解消	26. 国際理解	27. 男女共同参画																																																																										
施策分野④																																																																													
28. 土地の利用	29. 道路	30. 生活交通	31. 情報通信																																																																										
32. 循環型社会	33. 美しい環境と景観	34. 新エネルギー	35. 上下水道																																																																										
36. 災害対策	37. 消防・救急	38. 防犯・交通安全																																																																											
施策分野⑤																																																																													
39. 協働によるまちづくり	40. 広域連携	41. 効率的な行政運営																																																																											

No	項目	内容
6	幸福度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 住民の幸福度は平均ではふつうよりも低くなっている</li> <li>• 女性や40歳未満の若い世代で低くなっている</li> <li>• 幸せと感じている人は金銭による理由が多く、不幸せな人は人間関係による理由が群を抜いて高くなっている</li> </ul>
7	地域活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域活動への参加率は前回に比べて高くなっている</li> <li>• 40代以下の若い世代では、「今後参加したい」が比較的高くなっている</li> <li>• 年代差や地域差が顕著に表れており、若い年代での参加率は低く、芸北、大朝地域の活動参加率が比較的高くなっている</li> </ul>
8	これからのまちづくりのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前回調査の結果に比べて「住民と行政が、協力して」という割合が減少し、「行政中心で」という意見が増加傾向にある</li> <li>• 10・20歳代を除いて、年代が若いほど、「住民と行政が、協力してまちづくりを進めるべき」の割合が高くなる傾向がみられる</li> </ul>
9	SDGs	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「言葉も内容も知らない」人が6割以上おり、「言葉も内容も知っている」人が1割強と認知度の低さがみられる</li> <li>• 「言葉も内容も知らなかった」は他の年代に比べて30代で最も高く、若い世代での認知不足がみられる</li> </ul>
10	めざしたいまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前回に比べて「災害に強く安全で安心して暮らせるまち」や「農地・緑地などを保全する自然環境にやさしいまち」が求められている</li> </ul>

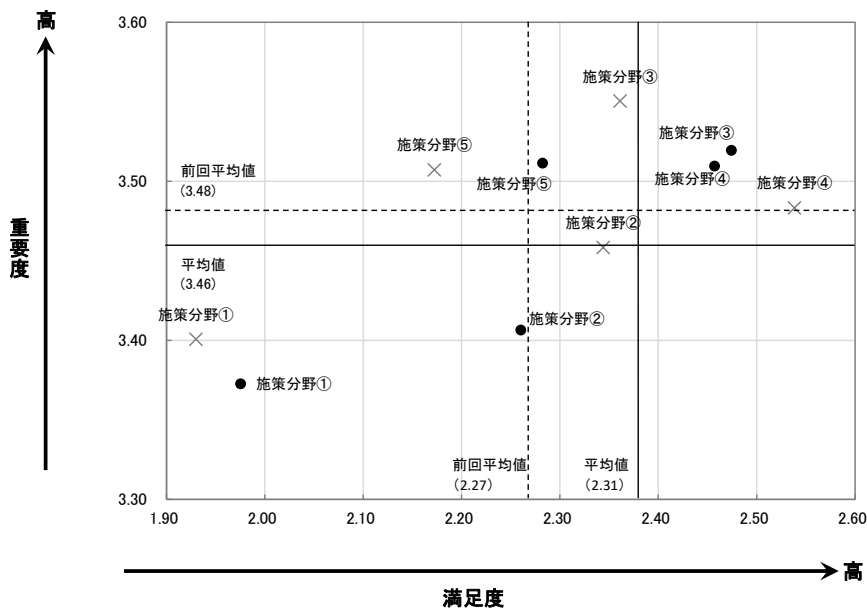
## ■満足度重要度の全体プロット

平均を基準として、重要度が高く、満足度の低い、実施優先度の高い施策

「1. 農業」 「7. 産業の担い手」  
 「9. 雇用」 「13. 移住・定住」  
 「15. 子育て」 「30. 生活交通」  
 「31. 情報通信」 「39. 協働によるまちづくり」  
 「41. 効率的な行政運営」



## ■施策分野に関する前回調査時からの変化



※●が今年度、×が前回のデータとなっています。